

WEB このページは、ホームページのみに掲載している情報です。

国内矢崎グループにおける環境保全コストは、設備更新による高効率の空調機器などの導入が少なかったため、投資額が前年度比52%減の303.9百万円となりました。費用は、生産量の増加に伴い、製品の回収・リサイクルや廃棄物処理費が増加しましたが、研究開発費などの減少により、前年度比8%減の4947.4百万円となりました。経済効果は、廃棄物の再資源化の推進により、313.0百万円となりました。

事業活動におけるエネルギーおよび水資源の投入量は、生産量の増加に伴い、5%の増加となりました。一方、CO₂排出量および廃棄物量は、前年度と比較して、ほぼ横ばいであり、環境保全活動による改善が見られました。

● **環境会計導入の目的**

ステークホルダーへの説明責任を果たす

● **集計期間**

2016年6月21日～2017年6月20日

● **基本事項**

・ **集計範囲**：国内矢崎グループ（矢崎総業、矢崎部品、矢崎計器および矢崎エナジーシステム）。ただし、投入エネルギーと環境負荷は国内子会社を含む。

・ **参考**：環境省環境会計ガイドライン 2005

・ **算定基準**：

① 環境保全以外の目的のコストと複合的に発生している場合は、按分して計算しています。

② 投資額は減価償却資産の当期取得額です。また、環境会計上、環境設備に関する減価償却費を定額法により算出し、費用に含んでいます。

・ 経済効果には測定可能な効果を計上し、推定に基づくみなし効果は含んでいません。

環境保全コストおよび経済効果

(百万円)

項目		投資額	費用	経済効果
事業エリア内		245.8	394.2	310.2
内訳	公害防止コスト	46.0	160.2	0.0
	地球環境保全コスト	199.8	33.8	39.7
	資源循環コスト	0.0	200.2	270.5
上下流コスト		5.1	800.5	2.8
管理活動コスト		2.2	556.2	0.0
研究開発コスト		11.0	3184.9	0.0
社会活動コスト		0.0	1.4	0.0
環境損傷対応コスト		0.0	0.0	0.0
その他		39.8	10.2	0.0
合計		303.9	4947.4	313.0
(参考：2015年度の合計値)		(629.8)	(5,368.6)	(346.3)

投入エネルギーと環境負荷

項目		単位	2015年	2016年	前年度との比較 (2016年-2015年)
Input	総エネルギー投入量	GJ	2,399,769	2,510,154	110,385
	水資源投入量	万m ³	567.6	595.3	27.7
Output	CO ₂ 排出量	万トン-CO ₂	17.3	17.6	0.3
	廃棄物量	千トン	4.1	4.0	▲0.1